

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果より

令和6年9月 敦賀市立角鹿中学校

4月18日、全国の中学校3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。7月に公表された全国の調査結果をもとに、本校の結果を分析しました。これまでの小中一貫教育の更なる推進とともに、全教科での指導方法の改善について、今後も進めてまいります。

ご家庭でも、お子様と学習への取組状況について振り返り、見直す参考にさせていただきますようお願いいたします。

【本校の強みや成果が表れているところ】*棒グラフの数字は「肯定的な回答の割合」(%)です。

◎・・・強みと考えられる項目 ☆・・・成果につながる授業での取り組み

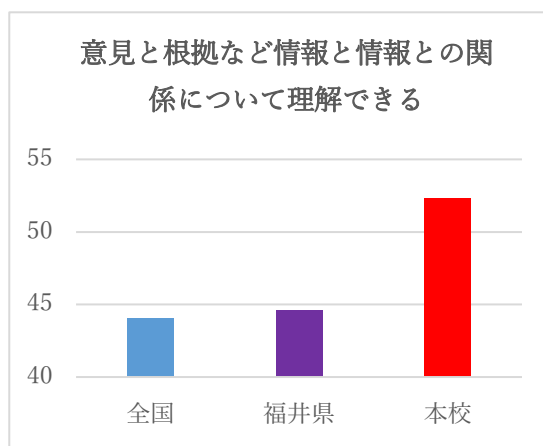
国語科

◎意見と根拠など、情報と情報との関係について理解する能力が高い。

◎単語の活用や働き、文の成分の順序など、文の構成について理解能力が高い。

☆授業開始時の継続的な漢字学習や、短歌や俳句・古典の基礎・基本の定着を図る学習の成果が出ています。大問4の短歌・書写に関する問い(短歌の表現技法・短歌の内容把握・行書の特徴など)は、すべて高い正答率(県・全国平均比+5%以上)でした。

☆要点をまとめる活動において「文章の内容を正しく読む」「条件を守る」ことを丁寧に取り組んできたことが、内容の解釈のみならず、読み手に伝わる文章構成力の向上につながっていると考えます。



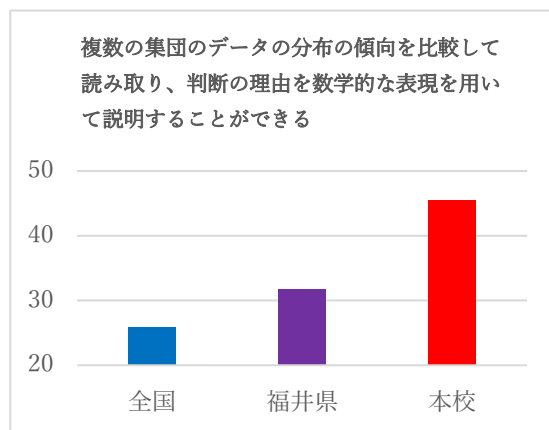
数学科

◎「計算」、「関数」、「データの活用」の技能が幅広く身についている。

◎数学的事柄が成り立つ理由やその判断の根拠を、数学的な表現を用いて説明する能力が高い。

☆計算コンテストへの取組や、授業前のミニプリントによる基礎学習の積み重ねの成果が出ています。

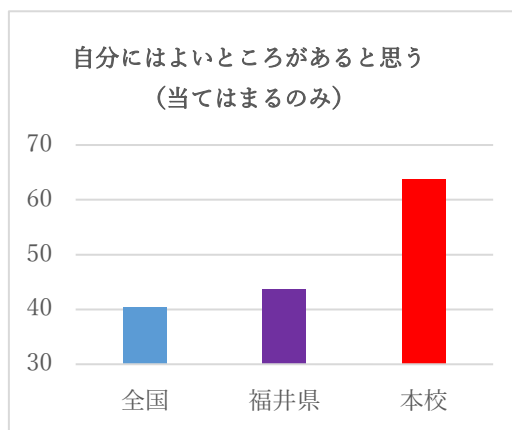
☆友達と意見を交換する際、数学的な用語を用いて説明することを積み重ねたり、記述式の問題に自分なりの言葉を使って書いたりしたことが成果となって表れています。



生徒質問紙より

◎「普段の生活で幸せな気持ちになる」「将来の夢や目標を持っている」など、自己肯定感の高い生徒の割合が高く、その結果「先生や大人にいつでも相談できる」「友達関係に満足している」「学校に行くのが楽しい」につながっていると考えられます。

☆「ポジティブ教育（仲間を大切に、困難に打ち勝つ）」「教育相談」「全職員で全生徒を見守る精神」の成果が表れています。



全体を通して

- ◎全国平均と比べて、どちらの教科も平均正答率の割合で上回る結果が出ている。
- ◎難しい問題でも、最後まで解答を導き出そうと頑張ることができている。
- ◎学校生活を楽しみ、友達や教員と良好な関係を築けている生徒が多い。
- ◎学習したことについて、わかった点とよくわからなかった点を次の学習につなげようとしている。

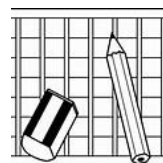
☆安定した人間関係と学級経営のもと、日々の授業では内容がより理解できるように、ICT を効果的に活用したり、協働的な活動を取り入れたりして、生徒たちをサポートしていきます。

【さらに力を伸ばすために】 ★各教科の課題のポイント？

- ・・・課題と考えられる項目 ☆・・・改善に向けての授業での取り組み

国語科

- 文章の内容を正しく読み、理解する力
- 自分の考えが伝わるように、文章を工夫して表現する力



文章の内容を的確に捉え、条件に合わせて自分の考えをまとめることに課題が見られます。

大問1ー三 話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる

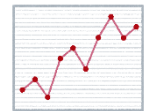
根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わるように工夫することが苦手です。

大問3ー四 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる

本校の生徒は、映像や音からの情報収集(インプット)には意欲的に取り組みますが、自分の考えを表すこと(アウトプット)や自分の言葉で言い換えて表現することが苦手です。☆学習内容を理解するだけでなく、お互いの考えを伝え合う活動を充実させていきます。

数学科

- 数量及び数量の関係を捉え説明する場面において、事象における数量やその関係を文字を用いた式で表す力
- 図形の性質を考察する場面において、筋道を立てて証明する力



数量及び数量の関係を捉え説明する場面で、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明するために、事象における数量やその関係を文字を用いた式で表すことに課題があります。

問1 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる

図形の性質を考察する場面において、予想した事柄が成り立つことを論理的に考察し、その理由を数学的に説明することに課題が見られます。

問9(1) 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくる時、 $AQ=PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する

☆どの領域の学習でも、「結論」を導くために、分かることを整理し根拠を示しながら論理的に説明する活動を充実させます。その際、数量やその関係を文字を用いた式で表すことや数学用語を用いて説明する機会をより多く取り入れます。

より良い自分づくりに向けて

「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時間に寝ている」「毎日同じくらいの時間に起きている」と回答している生徒の割合が約8割となっており、自分で生活リズムを整えることができている生徒が多いです。一方で、ICT 機器を学習に使う時間や平日の勉強時間が全国平均と比べて短いです。

- 平日 ICT 機器を学習に使う時間が1時間以上…10.7% (全国 16.6%)
- 1日あたりの勉強時間(平日)が1時間以上…57.4% (全国 64.3%)
平日3時間以上勉強している生徒…0% (全国 9.2%)

☆今後は、自分の学習スタイルを確立するために、平日の勉強時間をしっかり確保することが望ましいです。学校では、朝学習や授業中、夏季休業中の課題に ICT 機器を使って学習しています。その習慣を家庭でも活かしていきましょう。

